

福井県に残る天狗党の乱のあと

旧京藤甚五郎家住宅

南越前町今庄

京藤甚五郎家は北国街道今庄宿で古くから酒造業を営んでいた旧家で、家は標準的な町屋の約2倍という大きさでした。

天狗党一行は木ノ芽峠を越える手前でここに宿泊しており、家の中には天狗党がつけたとされる刀疵も残っています。これは喧嘩や追討軍との戦闘ではなく、久しぶりの酒で上機嫌になってつけた疵といわれています。

(県指定有形文化財)



(ウェブサイト「福井の文化財」より)



(『図説 福井県史』(福井県 1998年)より)

新保陣屋

敦賀市新保

木ノ芽峠を越えた天狗党一行は新保に陣を置き、次の葉原に陣を置いて待ち構えていた加賀藩と対峙しました。一行は戦闘を避けようとここで加賀藩と交渉を重ねましたが、追討軍の姿勢は厳しく、状況を変えることはできませんでした。攘夷の志だけでも伝えようと食い下がりますが、これも聞き入れられず、ついに降伏することを決意しました。

鯨蔵

敦賀市松原神社境内

追討軍に降伏した天狗党一行は初め加賀藩に預けられ、加賀藩からは丁重な扱いを受けていました。しかし、加賀藩から幕府に引き渡されると扱いは一変し、この鯨蔵に詰め込まれることになりました。

当時、蔵は全16棟で、現在地から北東のより海に近い場所に並んでいました。そこから1棟が松原神社境内に、1棟が水戸市回天神社境内に移築されて現存しています。



准藩士屋敷跡

三方郡美浜町佐柿

天狗党一行823名の内、約135名は遠島に処せられました。加賀藩から幕府に引き渡された後、加賀藩を始めとする複数の藩から寛刑を求める声が上がっていました。耕雲斎らの処刑を止めることはできませんでしたが、遠島の約135名は刑を許されて小浜藩預けとなりました。

小浜藩は一行に金子や屋敷を与えて迎え入れ、身分も浪士ではなく准藩士としました。



武田耕雲斎等の墓と武田耕雲斎像

敦賀市松島

罪人として処分された天狗党一行でしたが、乱からわずか3年後に大政奉還・王政復古があり、社会の大変革が始まりました。

以後、一行の扱いも一変し、公に顕彰が進められるようになりました。

この墓と像と向かい合わせとなっている松原神社は武田耕雲斎以下411名を祭神としてまつています。

(国指定史跡)

